

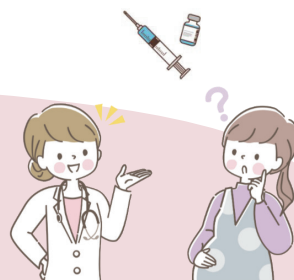
あいにくだより7月

RSウイルス感染症

RSウイルスワクチンは、2026年4月1日から定期接種ワクチンとなり助成対象となりました。

このワクチンは妊娠中（妊娠28週0日から36週6日）に接種することで、母体内に作られた抗体が胎盤を通じて胎児に移行し、生まれた乳児が出生時から病原体に対する予防効果を得ることが期待できます。

今月号では、RSウイルス感染症についてお知らせします。



RSウイルス感染症とは？

RSウイルスにより引き起こされる呼吸器感染症を「RSウイルス感染症」といい、以前は秋から冬に流行するものですが、今は春から夏にかけて流行するようになっています。

RSウイルス自体は凍結や55度以上の加熱、消毒薬などにより速やかに不活化されますが、感染力や繁殖力が非常に強く、くしゃみや咳による飛沫感染、ウイルスが付着したドアノブを触るなどの接触感染でどんどん広がっていきます。

潜伏期間は？

平均4～5日



治療薬は？

残念なことに、RSウイルス感染症に対する抗ウイルス薬などの治療薬はありません。症状を和らげる対症療法や呼吸がラクになるように横を向いて寝かせるなどの支持療法が主体となり、重症化しないよう経過観察をします。

それでもつらそうな場合は、入院して酸素投与や人工呼吸器で対応する場合もあり、入院患者の約4割が生後6カ月までの赤ちゃんで、中でも多いのが生後1カ月までなのです。

症状は？

約7割の乳幼児は発熱や軽い咳、鼻水など上気道炎の症状が数日続いたあとに治っていくのですが、残りの約3割は細気管支炎や肺炎など呼吸が苦しくなる下気道炎を引き起こして重症化し、入院に至るケースもあります。

また、RSウイルスは、潜伏期間から症状が治まった後1～3週間、トータルで約1カ月ほど感染力が続くのも特徴で、保育園や幼稚園、学校など集団生活において感染が避けられないウイルスでもあるのです。



8月のわくわくサークルのお知らせ

日時

R8.8.26(水)
10:00～11:30

童謡の手袋



持ち物

お子さん用
のお茶

場所

西庄公民館
1階和室

愛育会のInstagram



坂出市愛育会